

別添 アンケート調査結果データ

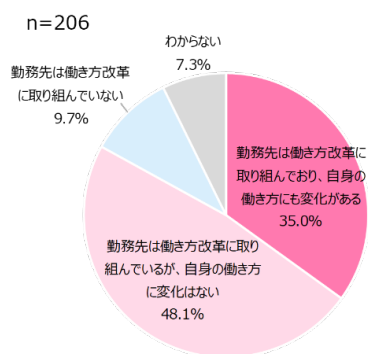
【調査結果 詳細】

<1.医師の働き方改革の現状について>

- 83%の医療施設で、医師の働き方改革に取り組んでいる状況が明らかになりました。そのうち自身の働き方にも変化を感じていると回答したのが35%にとどまり、未だ労働環境は十分に改善されていないことが示されます。
- 医師の働き方改革の取り組み内容として、「業務の効率化」「ミーティング・カンファレンス時間の短縮化」「ワークライフバランスの向上」が2割前後と上位に挙げた一方で、改革の取り組みが必要だと思う項目では、「業務の効率化」「ワークライフバランスの向上」が取り組み内容の回答と15%以上乖離が生じている結果となり、医師の期待値に合致していないことが分かります。

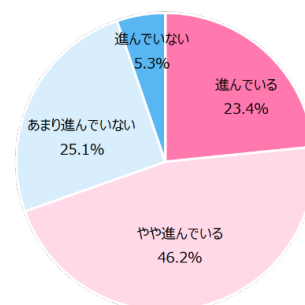
■ Q1：お勤め先の働き方改革の取り組みについて教えてください。

■ 働き方改革の取り組み状況



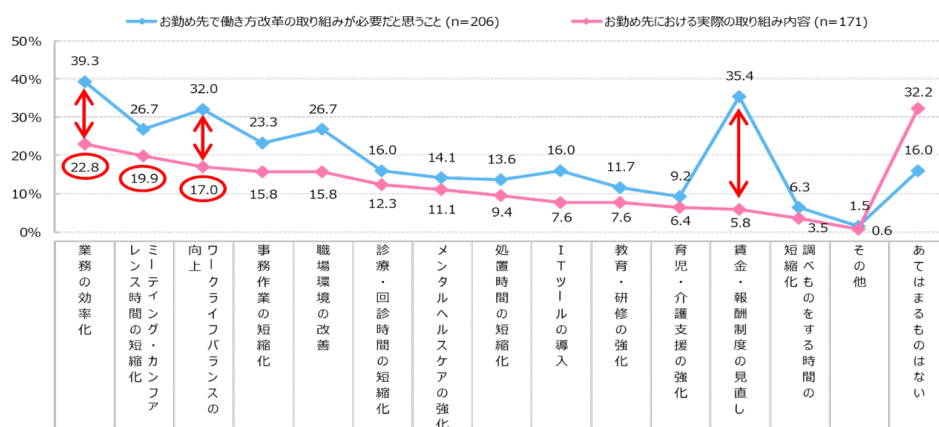
■ 働き方改革の進捗状況

n=171 ※勤務先が働き方改革に取り組んでいる方ベース



■ Q2：お勤め先で働き方改革の取り組みが必要だと思うこと、実際の取り組み内容を教えてください。

※勤務先の取り組み内容は、勤務先が働き方改革に取り組んでいる方ベース



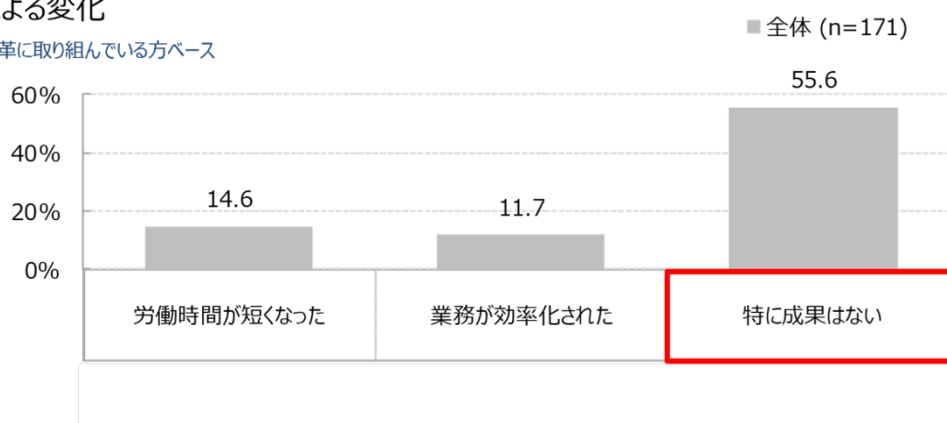
<2.医師の働き方改革における効果と課題について>

- 医師の働き方改革による変化は、「労働時間が短くなった」が15%、「業務が効率化された」が12%と上位に挙がるものの、「特に成果はない」が56%と過半数を占めている結果が浮き彫りになりました。
- 医師の働き方改革によって、治療方針の決定や研究にかかる時間の変化については、ともに7割以上が「減少していない」と回答しました。
- 日々の臨床の中で30%以上が一日に3個以上の疑問が発生するなか、9割以上がその疑問をすべて解決できていない状況であることがわかった。
- 8割以上が「医療の個別化ニーズに対応するため、医療者はエビデンス情報の収集・活用能力が一層求められている」「医療者がエビデンスや情報を効率的に収集・活用できるよう、施設は支援する必要がある」「医療の質は下げられないが、業務効率化が必要」「臨床疑問を未解決にしておく患者安全のリスクにつながる恐れがある」などに共感を示しました。

■ Q3：お勤め先での働き方改革の取り組みによって、どのような変化がありましたか。

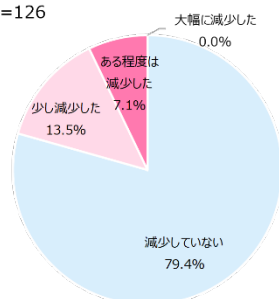
■ 働き方改革による変化

※勤務先が働き方改革に取り組んでいる方ベース



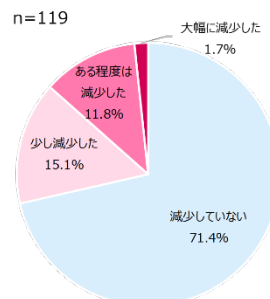
■ 治療の方針の決定にかかる時間の変化

※1年以上勤続且つ勤務先が働き方改革に取り組んでいる且つ治療方針の決定に取り組んでいる方ベース
n=126



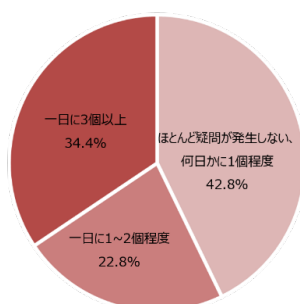
■ 研究にかかる時間の変化

※1年以上勤続且つ勤務先が働き方改革に取り組んでいる且つ研究に取り組んでいる方ベース
n=119



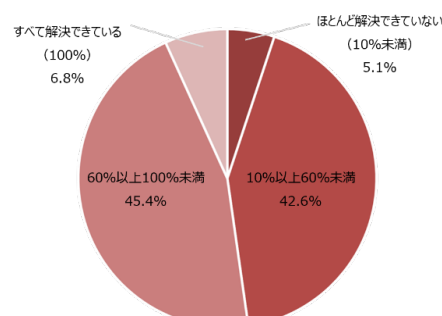
■ 臨床で発生する疑問の数

n=206

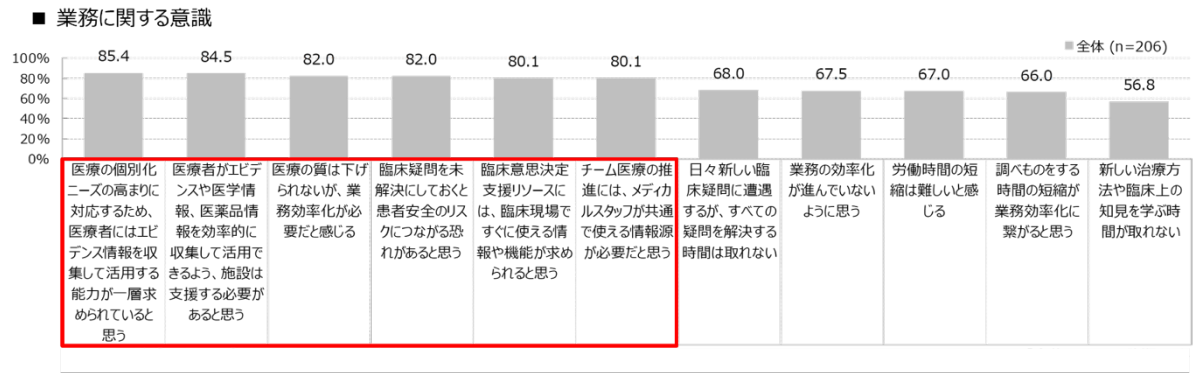


■ 臨床疑問の解決率

※臨床疑問が発生している方ベース
n=176



■ Q4：業務に関するあなたの意識についてお答えください。



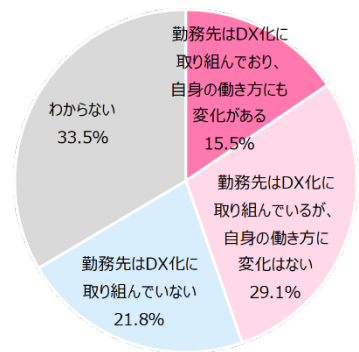
<3.DX化の進展状況と課題について>

- DX化の取り組み状況は45%にとどまり、自身の働き方にも変化を感じているのはそのうち16%であることが分かりました。一方、DX化で働き方が改善されると思うという回答は56%と過半数を占めています。
- 医師の働き方改革に必要なと感じる取り組みやツールとして、20%の回答者が「効率的で信頼できる情報提供ツールの導入」を選択しました。他には「手書きや書類管理の自動化ツールの導入」「業務を分担するためのタスクシフトの導入」「柔軟な勤務時間制度の導入」「電子カルテシステムの改良」が2割半前後で上位に挙がりました。
- 一方、DX化に対する勤務医の視点での不安点は「システムダウンや障害への対応」「データセキュリティの懸念」「必要なスキルの不足」が2割後半で上位に挙がりました。「生成AIの情報の信ぴょう性」については約20%が不安を感じていると回答しています。

■ Q5：お勤め先のDX化（デジタル技術の導入や活用の推進）の取り組みについて、あなたの状況にもっとも近いものをお答えください。

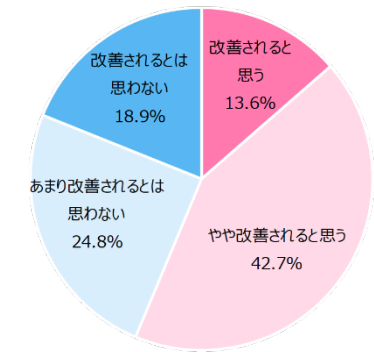
■ DX化の取り組み状況

n=206

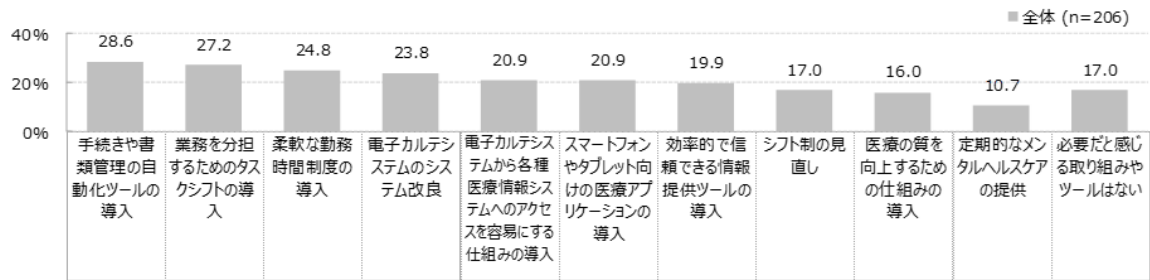


■ DX化に対する期待度

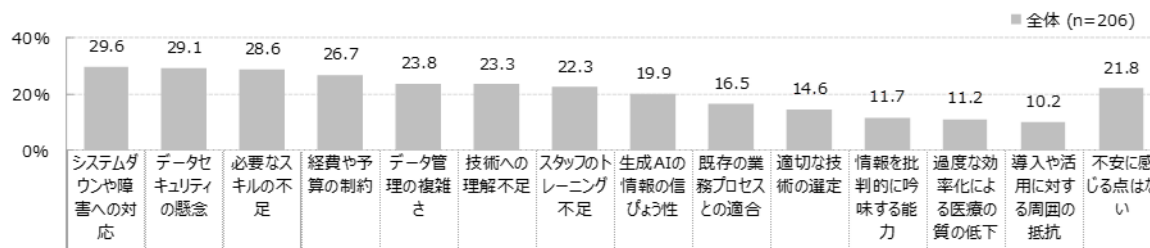
n=206



■ Q6：働き方改革を進めるうえで、あなたが必要だと感じる具体的な取り組みやツールについて教えてください。



■ Q7：DX化（デジタル技術の導入や活用の推進）において、あなたが不安に感じる点は何ですか。



【医師の働き方改革に関する勤務医の所感】

- ・仕事量の削減やIT技術を含めた色々なものによる効率化は、ある程度なされても、一番の問題である人材の確保ができていない。逆に離職者が増えており、単に働き方改革を個々の施設に働きかけても限界が来ている。たとえ、自由主義として問題があるとしても、人の命に関わるヒト、モノの不足は、行政の力を振るってでも解決すべきだと考える。(勤続年数20年以上/小児科)
- ・当院の電子カルテは、他社電子カルテより20年以上遅れており、カルテ記載、オーダーに時間がかかる。電子カルテを変えるだけでも恐らく1日30分は勤務短縮する。(勤続年数10年－20年未満/糖尿病・代謝・内分泌内科)
- ・研修医や若手だけ労働時間が短縮されて中堅にしわ寄せがきている(勤続年数10年－20年未満/内科)
- ・時間だけ制限されて、やるべき仕事の質と量は変わっていない(勤続年数5年未満/呼吸器内科)
- ・理事長、病院長や副院長クラスが高齢で、働き方改革に痛手となっている。(勤続年数10年－20年未満/外科)
- ・小手先の医療者側の改革は、意味が無い。患者側（国民側）の改革も必要。(勤続年数5年未満/麻酔科)
- ・時間外労働の短縮が給与引き下げにつながる。当院では多忙なB水準医師に対してインセンティブが無いので、時間外労働による給与水準引き上げを望むため時間外労働短縮に抵抗し、働き方改革が進まない。(勤続年数10年－20年未満/その他)

〈本件に関する報道関係者様からのお問合せ先〉

ウォルターズ・クルワー・ヘルス 広報代行 旭エージェンシー内（担当：馬場）

TEL：03-4570-2420／ MAIL：wk_ce@asahi-ag.co.jp

〈本件に関するお客様からのお問合せ先〉

ウォルターズ・クルワー・ヘルス クリニカル・エフェクティブネス

TEL：03-5427-1930（UpToDate製品担当）／ MAIL：CEJapan@wolterskluwer.com